

授業科目

科目概要・形式

配当年次

看護理論特論

2単位 30時間 選択

1年 前期

科目責任者

木村恵美子

担当者

木村恵美子、角濱春美、細川満子、藤本真記子、福井幸子、鳴井ひろみ、大関信子

1. 科目のねらい・目標

専門的看護実践の根幹となる看護の概念枠組みを理論的に構築するため、あるいは既存の看護理論・看護モデルを看護実践・看護教育および看護研究のうえに活用するため、①看護理論の構造、②代表的な看護理論の理解、③看護実践への理論の活用などの内容について学ぶ。

2. 授業計画・内容

下記の担当者により代表的な看護理論、看護モデルおよび中範囲理論を取り上げ、全体として看護実践に関連のある理論の構造や看護実践への活用などを学ぶ（オムニバス形式）。

第1-2回 看護理論の構造と構成要素（木村）

看護のメタパラダイム、看護理論の範囲、看護を構成する4つの概念などの基本的理解を深める。

第3回 看護理論の歴史的発展：ナイチンゲール看護論とその発展（木村）

a reparative process, vital power, art of nursing, the elements of nursing等のキーワードを手掛かり

に看護実践と照らし、自らの看護観を発展させる。

第4-5回 看護研究、看護実践からの理論生成-概念分析とその適用（角濱）

第6-7回 看護哲学と看護理論：Core, Care, Cureのモデルを看護実践に活用し、看護の独自性を考察する。（福井）

第8-9回 看護実践モデルと看護理論：人間関係論 J. トラベルビー&HE. ペプロウの理論を通し、患者-看護師人間関係構築のプロセスを考える。（藤本）

第10-11回 看護実践モデルと看護理論：オレムのセルフケア理論を理解し、看護実践への活用を学ぶ。（細川）

第12-13回 看護実践モデルと看護理論：文化的背景の異なるクライアントのアセスメントモデルを学び、文化ケア論を用いた事例検討を通しケアプランの立て方を学ぶ。（大関）

第14-15回 看護実践モデルと看護理論：危機理論の概念を踏まえ、危機モデルの看護実践への活用を学ぶ。（鳴井）

3. 参考書

「看護理論家とその業績

都留伸子監訳 医学書院 1991.（最新版利用）

4. 成績評価方法

自分の興味のある看護理論あるいは看護モデルについて調べ、その一つについて著者紹介と要旨ならびに自分で行った評論をレポートする。

5. 受講要件

看護師の資格を有すること。

6. 社会人学生に対する配慮

講義の日時は受講生の相談に応じる。

7. その他

担当教員に事前に連絡を取り、課題等プレゼンの準備をしてください。